

モニタリング結果報告書 (平成29年度)

1. 施設概要

施設名	神奈川県総合リハビリテーションセンター		
所在地	厚木市七沢 5 1 6		
サイトURL	http://www.kanagawa-rehab.or.jp		
根拠条例	神奈川県総合リハビリテーションセンター条例		
設置目的(設置時期)	心身障害者等の社会復帰を積極的かつ効果的に推進するため、福祉と医療の連携により、入所及び入院している者等に最も適した診断、治療及び機能回復訓練のほか、職業準備訓練、生活支援等を積極的に行うとともに、併せてこれらに関する研究を行い、総合的かつ一貫したリハビリテーションを実施するため(昭和48年4月)		
指定管理者名	社会福祉法人神奈川県総合リハビリテーション事業団		
指定期間	平成28年4月1日～平成38年3月31日	施設所管課	県立病院課

2. 総合的な評価

総合的な評価の理由と今後の対応	
<p>評価については、利用状況はB、利用者の満足度がA、収支状況がAであったことから、3項目評価はA評価となった。今後も引き続き再整備を踏まえた適切な人員配置、業務の効率化、利用者サービスの向上等が求められるが、再整備施設の有効活用により、更なる改善を進めていくことができるものと考えている。</p>	
<p><各項目の詳細説明> <各項目の詳細説明></p> <p>【管理運営等の状況】 再整備工事を行っており、平成29年8月には新病院棟が竣工、同年12月に運営を開始している。事業を順調に実施しており、今後は旧病院棟の除却や外構工事等を行う。また、「さがみロボット産業特区」における実証実験機関として、引き続き県施策と連携を図っている。</p> <p>【利用状況】 福祉施設については、施設ごとにはばらつきが見られるものの、平成28年6月にオープンした福祉棟を核に利用者支援を着実に進めた。病院については、神奈川県リハビリ病院の入院については、新病院移転に伴い、利用者数の増に伴う入院基本料の増収及び患者サービスの向上を実現したが、外来については、利用者数が前年度より減少した。再整備の途中ということもあり、判断が難しいが、実績を踏まえてB評価とした(S評価が1区分、A評価が3区分、B評価が3区分、C評価が3区分)。</p> <p>【利用者の満足度】 施設により6月～11月のいずれかで実施した。S評価が2施設2区分、A評価が3施設3区分だったため、A評価とした。</p> <p>【収支状況】 一部施設における利用者増による収入増等により、収支比率が100.67%となったため、A評価となった。</p> <p>【苦情・要望等】 概ね利用者理解を得られるような対応がとられている。</p> <p>【事故・不祥事】 施設利用中に利用者の骨折事故が数件発生している。</p> <p>【労働環境の確保に係る取組状況】 労働環境に関し、県による監査、労働基準監督署等からの指摘事項はない。</p>	
3項目評価	<p>S : 極めて良好 A : 良好 B : 一部改善が必要 C : 抜本的な改善が必要</p> <p>※3項目評価とは、3つの項目(利用状況、利用者の満足度、収支状況)の評価結果をもとに行う評価をいう</p>
A	

3. 月例・随時モニタリング実施状況の確認

月例業務報告 確認	遅滞・特記事項があった月	特記事項または遅滞があった場合はその理由
	-	-
現場確認	実施日	特記すべき事項があった場合はその内容
	-	-
随時モニタリングにおける指 導・改善勧告等の有無	有・無	指導・改善勧告等の内容
		-

4. 管理運営等の状況

[指定管理業務]

事業計画の主な内容	実施状況等	実施状況に関わるコメント
<p>1 重点方針</p> <p>(1) 高度専門性の発揮～県民サービス～ 事業団は、リハセンターの指定管理者として、民間病院や福祉施設では対応が難しい重度・重複障害者への医療・福祉サービスの提供と、リハビリテーションに関する研究開発や地域のリハビリテーション活動を支える市町村等への支援をする。</p> <p>(2) 収益の確保、効率化 利用促進による収入確保や、給与水準見直しなどによる経費削減、業務執行方法や人員配置の見直しなどによる効率的な運営を推進し、安定した経営基盤を作る。</p> <p>(3) リハセンターの再整備への対応 2病院を機能統合し、200床の新病院棟を新築、平成10年度設置の既存病棟80床と併せ280床の病院として運営する。 また、新たな病棟再編により1病棟増加することから、看護職員の確保対策などの施設運営と事業展開を図る。</p> <p>(4) 病院・福祉施設の安全管理対策の強化 再整備工事に伴い、電気錠や監視カメラによる管理が行われるようになり、セキュリティ面は向上するので、いかに不審者を建物内部に侵入させないかを対策の基本に、安全な施設運営を図る。 危機管理に対する意識を持ち続け、地元警察等による防犯訓練の実施・指導、また、地方自治会との協力などによる安全な施設運営を図る。</p>	<p>(1) 病院と福祉施設、地域支援センターの連携により、病院での医療リハビリテーションから福祉施設での社会復帰に向けた支援を行うとともに、病院・福祉で培ったノウハウを県内の市町村、居宅介護支援事業所、ケアマネージャーなどの地域資源に還元し、障害者が地域で自立した生活をしていけるよう、地域との連携を図った。 また、平成29年4月より病院内にリハビリテーションロボットに関する専門的な相談に対応する「かながわりハビリロボットクリニック（KRRC）」を設置し、リハビリテーションロボットの全般的な相談を受けるほか、さがみロボット産業特区の実証実験の調整、さらには筋電義手の普及に取り組んだ。</p> <p>(2) 利用促進の収入確保については、病院・福祉両施設で利用者確保に努め、病院では回復期リハビリテーション病棟入院料Ⅰを段階的に取得し、報酬単価の高い自己収入確保を実現した。七沢リハビリテーション病院脳血管センターとの統合による人員配置の見直しと効率的な組織運営を推進するとともに、給与制度の見直しについては、組合交渉を行い、平成30年3月14日の団体交渉で大綱妥結に至った。</p> <p>(3) 平成29年12月に新病院棟がオープンし、病棟再編に伴う1病棟増加に対応し、看護職員の確保を進めた。また、センター職員がこれまで蓄積してきたノウハウを発揮し、円滑に運営することができた。</p> <p>(4) セキュリティ面が向上し、外部からの侵入を防止できるようになった。利用者の離院離棟についても未然に防げるようマニュアル、対策の整備を行うとともに捜索訓練を行うなど、利用者を守るための安全な管理運営に取り組んだ。また、地元警察による防犯訓練・指導を2回、地方自治会の協力による地域での防犯活動を1回実施した。</p>	<p>リハセンターの再整備にあたり、平成29年8月に新病院棟が竣工し、同年12月から運営を開始し、引き続き適切な管理運営を行っている。</p>

<p>2 事業計画 (1) 病院機能の充実 神奈川リハビリテーション病院 (ア) リハビリテーション機能の充実</p> <p>(イ) 地域との連携強化 急性期病院との連携による迅速な患者受け入れや、退院後のスムーズな地域生活への移行のため、関係機関との連携を強化する。</p> <p>(ウ) 患者の視点に立った病院経営 患者への満足度調査を実施し、よりよい利用者サービスが提供できるよう努める。患者・家族が診療内容をよく理解し、納得して医療を受けられるよう患者への十分な説明と同意による医療を行うとともに、クリティカルパスの活用など患者にとってわかりやすい医療の提供に努める。</p> <p>(エ) 効率的・効果的な業務運営と経営改善 効率的・効果的な病院運営を行い、利用率を向上し収益拡大を図るため、地域連携を強化して患者確保に努め、入院審査の迅速化を実施する。</p>	<p>2 各施設の実施状況 (1) 病院機能の充実 神奈川リハビリテーション病院 (ア) リハビリテーション機能の充実</p> <p>脊髄障害、脳卒中、脳外傷、骨、関節疾患等に対して、リハビリテーション医療（診断、評価、治療、看護、リハビリテーション訓練等）を提供し、患者の早期社会復帰を図っている。平成29年度の入院患者数は、延92,726人（実患者数1,239人）で、1日平均の入院患者数は、254.0人であった。退院患者数は、1,239人で、家庭復帰が、1,073人（86.6%）と最も多く、次いで施設入所86人（6.9%）、転院75人（6.1%）、死亡5人（0.4%）となっている。外来患者数は延61,898人（1日平均211.3人）であった。</p> <p>(イ) 地域との連携強化 新病院棟完成に先立ち行われた、七沢リハビリテーション病院との機能統合に伴い、それまで七沢リハビリテーション病院で連携してきた医療機関・事業所との連携についても、継続して関係強化を図った。また、患者の紹介・逆紹介の件数については、紹介件数が平成29年度目標値1,000件に対し、1,158件、逆紹介件数が平成29年度目標値1,300件に対し、1,677件という結果になった。</p> <p>(ウ) 入院患者満足度調査、外来患者満足度調査を実施した。また、アドボカシー室において、利用者からの要望、苦情に対する回答として院内表示及び郵送などによる対応を行った。</p> <p>脊髄障害、高次脳機能障害、変形性股関節症（術中を含む）、小児脳損傷、脳血管障害に対応したクリニカルパスにより、患者にとってわかりやすい医療を提供するとともに、平均在院日数の短縮、安定的治療、ベッドコントロールの円滑化を図った。なお、満足度調査は、平成29年度目標値3.4点に対し、3.4点となり達成することができた。</p> <p>(エ) 効率的・効果的な業務運営と経営改善 新病院移転に伴い、2階のリハビリテーションフロアがワンフロアに集約されることで、利用者の導線が改善され、利用者に対するサービスが向上した。365日リハビリテーションを実施し、入院基本料の増収及び患者サービスの向上を実現した。入院審査の迅速化を実施し、待機患者の期間短縮に取り組み、患者確保を強化した。新病院移転後についても、6床室から4床室になったことや設備が充実したことで、高い数字の利用率を維持することができた。</p> <p>後発医薬品の購入については、平成29年度目標値40.0%を上回る55.1%と大幅に採用率の目標値を上回ることができた。</p>	<p>平成29年4月1日をもって七沢病院との統合が行われるとともに、平成29年8月には新病院棟が竣工し、12月に運営が開始された。通院患者の自宅復帰や退院後の就労・復職支援について前年度と同様に実施し、一定の成果を上げた。</p>
---	--	---

<p>(2) 福祉機能の充実 ア 七沢学園 (ア) 施設機能の充実</p> <p>(イ) 地域との連携強化 地域連携機関との情報交換や技術支援等、地域と一体となった福祉サービスを展開し連携を強化する。</p> <p>(ウ) 利用者の視点に立った施設運営 利用者の人権擁護や個人情報の保護に努めるとともに、利用者の満足度調査を実施し、よりよい利用者サービスが提供できるよう努める。</p>	<p>(ア) 福祉型障害児入所施設では、虐待やその傾向にあるケースと自閉症など広汎性発達障害やADHD（注意欠陥多動障害）等を伴うケースの利用が依然として際立っている。また、虐待の措置入所のほか、短期間（1ヶ月～6カ月）の施設入所を通して、ADLの評価や改善、集団生活での行動観察や評価、家族のレスパイト等の課題を絞り込んで利用して「集中療育」を実施しており、平成29年度は入所定員数30名のうち2名枠を設けて、利用者実人数は7名であった。</p> <p>障害者支援施設では、日中活動支援の生活介護においては、強度行動障害者や医療ケアを必要とする利用者の健康維持を基本に、機能や発達レベルに応じ機能維持訓練や軽作業、歩行訓練も行った。自立訓練（生活訓練）においては、利用者各々に合った個別作業を主とした支援を行った。</p> <p>(イ) 地域福祉支援事業では、電話や来園による相談支援を延べ1,912人、知的障害児通所機関巡回指導を131回実施した。</p> <p>児童施設・成人施設ともに実施している短期入所事業では、家族の休養だけでなく、冠婚葬祭や疾病・出産の緊急対応、不登校・引きこもり対応などの社会的理由、また社会的拡大を目的とした施設体験などの支援も行った。</p> <p>その他、児童福祉法第33条に基づく緊急一時保護による入所の受入れを行った。</p> <p>また、地域の知的障害者やグループホーム等へ地域移行した退所者及び短期入所のうち生活介護の受給者証を所持する者を対象として、日中活動支援（通所訓練）を提供した。</p> <p>(ウ) 第三者からなる苦情解決委員により、知的障害児者については月2回の相談日を設け適切かつ公正に対応するとともに、施設毎の苦情解決第三者委員との情報交換等連携を図るため苦情解決連絡会を年2回実施した。なお、満足度調査は、平成29年度目標値3.2点に対し、3.3点となり達成することができた。</p>	<p>平成28年6月にオープンとなった福祉棟を核に、利用者支援を着実に進めた。</p>
---	---	---

<p>(工) 効率的・効果的な業務運営と経営改善</p> <p>効率的・効果的な施設運営を行い、利用率の向上を図るため、関係機関との連携強化を図る。</p>	<p>(工) 児童施設では、小規模ユニットでの運営をしているため、新たに入所する利用者が集団生活に慣れるまでに、時間を要するようになり、学年男女別及び障害別に円滑に入所することができる入所希望者を選定して入所者を決定する必要が生じているため、入所児童の調整が難しいなか、入所者を確保できた。</p> <p>さらに、短期入所を積極的に受け入れ、目標に近い利用者数を確保できた。加齢児の地域移行が課題となっていたが、児童相談所、市町村及び相談支援事業所で検討を重ねた結果、在宅へつなげることができた。</p> <p>成人施設の日中活動支援の申込み件数が増加し、地域のニーズに対応することができた。また関係機関と情報交換を行い、家庭復帰へつなげることができた。</p> <p>日中サービスの訓練において入所者が安定的に訓練期間を終了するための工夫として、養護学校在籍中の学生を夏休み期間中に短期入所で受け入れ、生活訓練を体験してもらった上で、本入所の可否を評価するプログラムを実施した。12月には入所の可否を評価し、入所が決定した利用者には3月以降可能な限り早い段階で本入所を促すことで、同時期に例年生じている生活訓練から地域への移行による利用率の低下を和らげることができた。</p>	
---	---	--

<p>イ 七沢療育園 (ア) 施設機能の充実</p> <p>(イ) 地域との連携強化 地域連携機関との情報交換や技術支援等、地域と一体となった福祉サービスを展開し連携を強化する。</p> <p>(ウ) 利用者の視点に立った施設運営 利用者の人権擁護や個人情報の保護に努めるとともに、利用者の満足度調査を実施し、よりよい利用者サービスが提供できるよう努める。</p> <p>(エ) 効率的・効果的な業務運営と経営改善 効率的・効果的な施設運営を行い、利用率の向上を図るため、関係機関との連携強化に取り組む。</p>	<p>(ア) 重度の知的障害と肢体不自由を併せ持つ重症の心身障害児(者)に医療の提供と機能回復のための療育及び日常生活助言・援助を行い、障害の軽減と家庭での介護支援に努めた。平成29年度の入所事業は142人の利用者を受け入れ、143人が退所した。前年度と同様に密度の高い医療体制を維持し、超・準超重症心身障害児(者)42人を受け入れた。</p> <p>(イ) 地域福祉支援事業では、「在宅重症心身障害児(者)療育訪問指導事業」を33回、延べ33人実施した。特に、施設機能を利用する必要がある児(者)と保護者の療育支援を行う「重心親子教室」については、1回、参加者6人を実施した。短期入所事業は、在宅の重症心身障害児(者)の家族等の疾病、出産、休養などの理由で実人数193人、延べ1,093人が利用した。</p> <p>(ウ) 第三者からなる苦情解決委員により、重症心身障害児者については月1回の相談日を設け適切かつ公正に対応するとともに、施設毎の苦情解決第三者委員との情報交換等連携を図るため苦情解決連絡会を年2回実施した。なお、満足度調査は、平成29年度目標値3.7点に対し、3.9点となり達成することができた。</p> <p>(エ) 障害児福祉手当及び特別児童扶養手当の資格喪失要件の見直しが行われ、特に月を跨いだ利用の場合には当該手当が支給されなくなったことから、短期利用に変更する利用者が増加した。平成28年度と比較すると中期利用者が172名から142名に減少し、短期利用者が144名から193名に増加した。 中期利用者の月跨ぎを回避した利用の調整や、短期入所者の増加によりベッドコントロールが難しく空床が生じやすくなるため、安定的な利用率維持に努めた。</p>	<p>前年度と比較すると中期利用者が減少し、短期利用者が増加したことにより、ベッドコントロールが難しく空床が生じやすくなるため、安定的な利用率維持に努めた。</p>
---	---	--

<p>ウ 七沢自立支援ホーム (ア) 施設機能の充実</p> <p>(イ) 地域との連携強化 地域連携機関との情報交換や技術支援等、地域と一体となった福祉サービスを展開し連携を強化する。</p>	<p>(ア) 肢体不自由については、神奈川県リハビリテーション病院と連携して、身体機能の回復・改善、職業能力・社会生活力の向上に必要な支援を行い、社会参加、家庭復帰が円滑に行えるように努めた。 中途視覚障害者に対しては、社会生活力の向上を目指して、歩行能力の回復、点字の読み書き習得、情報機器の活用、身辺管理・家事動作技術の習得、ロービジョン評価・訓練、視覚障害者スポーツなど地域での在宅生活に向けての支援を行った。</p> <p>(イ) 地域福祉支援事業では、地域における障害者や退所後の利用者等に通所訓練を実施し、職場復帰に向けた支援、家庭復帰後の生活の質の向上及び社会生活に向けた支援等を提供した。更に視覚障害者に対しては、訪問訓練を実施し、平成29年度は12件実施した。 短期入所事業では、在宅の肢体不自由を中心に家族等の疾病、休養などの理由で短期的に利用する方等での実人数77人、延べ401人の受入れを行った。 その他に受託評価事業では、肢体不自由児(者)を対象とし、支援学校(支援学級)在学者の進路指導や施設利用者の生活自立支援に資するため、神奈川県リハビリテーション病院と連携して、医学、心理、職能、社会生活等での評価を行っており、平成29年度の利用者数は実人数12人、延べ50人であった。県内の盲学校等に在籍する視覚障害児(者)を対象に神奈川県リハビリテーション病院眼科と連携し、視機能・触察能力・日常生活動作・コミュニケーション能力等の評価を行う受託評価事業の利用者数は、実人数1人、延べ5人であった。</p>	<p>近隣の養護学校、神奈川県リハ病院からの入所者数を大きく伸ばすことができ、リハセンターの特色である医療と福祉の連携に寄与した。</p>
---	--	---

(ウ) 利用者の視点に立った施設運営

利用者の人権擁護や個人情報の保護に努めるとともに、利用者の満足度調査を実施し、よりよい利用者サービスが提供できるよう努める。

(エ) 効率的・効果的な業務運営と経営改善

効率的・効果的な施設運営を行い、利用率の向上を図るため、関係機関との連携強化に取り組む。

(ウ) 各福祉施設が提供する福祉サービスに関する、利用者や家族からの苦情については、第三者からなる苦情解決委員により、身体障害者については、月2回設け適切かつ公正に対応するとともに、施設毎の苦情解決第三者委員との情報交換等連携を図るため苦情解決連絡会を年2回実施した。なお、満足度調査は、平成29年度目標値3.5点に対し、3.5点となり達成することができた。

(エ) 平成28年6月に福祉棟に移転して以降、居住環境が大幅に向上した結果、近隣の養護学校から七沢自立支援ホームに入所する利用者が、平成28年度は0名だったところ、平成29年度は6名と大きく伸ばすことができた。また、神奈川リハビリテーション病院からの入所受入が平成28年度は13件あったのに対し、平成29年度は22件と9人増加（前年比169%）となり、リハセンターの特色である医療と福祉の連携を高めることができた。

<p>(3) 調査、研究、開発事業</p> <p>(1) リハビリテーションに関する調査・研究・開発</p> <p>医療と福祉を一体的に運営しているという特徴を活かし、医学的・工学的・社会福祉学的領域において調査、研究・開発を行い、医療・福祉の向上に取り組んでいる。</p> <p>また、神奈川県による県民生活の安全・安心の確保及び地域社会の活性化を実現するための、「さがみロボット産業特区」における生活支援ロボットの実証実験の場として位置づけられていることから、事業団としてもリハビリに役立つロボットの実用化に向けて、産学公の連携による実証実験を引き続き行い、専門的な立場、臨床的な立場から評価・助言を行う。</p> <p>さらに、平成29年度からは、県の新規事業として「かながわりハビリロボットクリニック（KRRC）」を設置することとなり、筋電義手をはじめリハビリテーションロボットに関する専門的な相談に対応するなど、障害者のADLやQOLの向上を図る。</p>	<p>次の3つの基本理念をもとに、医療と福祉を一体的に運営しているという特徴を生かし医学的、工学的、社会福祉学的領域において調査、研究・開発を行ない医療・福祉の向上に向け取り組んだ。</p> <p>①障害発生の原因の解明とそれに基づく予防対策の確立</p> <p>②障害発生の除去、修復メカニズムの解明</p> <p>③障害者の自立促進のための研究</p> <p>研究は、</p> <p>①障害児者におけるリハビリテーションアプローチに関する研究</p> <p>②障害児者に関する計測的・工学的研究</p> <p>③障害児者の生活の質に関する研究の3分野を重点に調査、研究・開発を行った。</p> <p>研究の主な対象は、 神奈川リハビリテーション病院では、</p> <p>①骨関節疾患（変形性股関節疾患）</p> <p>②脊髄損傷及び脊髄疾患</p> <p>③神経難病（小児てんかんや知的発達障害も含む）</p> <p>④高次脳機能障害、脳血管障害（脳出血、脳軟化、くも膜下出血など）</p> <p>福祉部門では、</p> <p>①強度行動障害児者、</p> <p>②ロービジョン障害者</p> <p>となっている。</p> <p>また、神奈川県総合リハビリテーションセンター研究発表会を開催した。（一般演題12題、ポスター発表2題）研究成果を情報発信するとともに、関連の専門分野学会等において発表を行い、あわせて、「神奈川県総合リハビリテーションセンター紀要第41号」を作成した。</p>	<p>前年度と同様に関係機関と連携した臨床的・実証的な調査・研究等を継続して実施した。また、平成29年度から「かながわりハビリロボットクリニック（KRRC）」を設置し、筋電義手をはじめ、リハビリロボットに関する専門的な相談に対応するなどし、障害者のADLやQOLの向上に寄与した。</p>
---	--	--

情報サービス事業では、図書、文献、資料等の収集・提供、医学・研究等のフォトサービス、研究会や講演会における機材の貸し出し、また医療・福祉情報の集積や調査を行った。図書関係については、高度専門性を維持・発展させるため、常に最新の情報や知識の提供ができるように雑誌90種を購入し図書室専門書の充実を図った。

「さがみロボット産業特区」における生活支援ロボットの実証実験の場としてリハセンターが位置づけられている。リハビリに役立つロボットの実用化に向けて、実証実験の協力を行ない、リハビリテーションにおける効果検証や、製品に対する評価・改善点の提言を行なった。また、県や市のロボット産業に関する協議会等に委員出席を行うことや、県主催の研究会における講演協力、横浜国立大学の行う研究への参画などを行った。

平成29年4月より「かながわりハビリロボットクリニック（KRRC）」が設置され、筋電義手の処方、訓練など普及に向けた取り組み、ロボットリハビリテーションの実施、企業・大学研究室への開発支援を行った。また、さがみロボット産業特区における実証実験の受け入れ調整についてもKRRCが担うことになった。

筋電義手の訓練技術やプロトコルを学ぶため、先進施設である兵庫県立リハビリテーション中央病院に作業療法士に他スタッフを研修派遣するとともに、切断者等患者からの相談や処方・訓練を実施するとともに、地域支援センターと共催した義肢装具セミナーの実施、他大学・病院等との連携構築を行った。

<p>(4) 地域へのリハビリテーション支援事業</p> <p>県から指定を受けている「神奈川県リハビリテーション支援センター」として、地域リハビリテーション支援を行うとともに、「高次脳機能障害支援普及事業」の支援拠点機関として、地域の相談体制の整備や研修に取り組む。</p> <p>全県的な立場からの地域支援事業として、関係機関等との連携強化、地域支援ネットワークの充実、専門相談、地域人材の育成研修、リハビリテーション情報収集・提供等を実施する。</p>	<p>リハビリテーション専門研修、地域リハビリテーション支援に関連する活動、県委託事業である神奈川県リハビリテーション支援センター事業を行っている。県委託事業に関しては、リハビリテーション情報の提供、人材育成、関係医療機関の連携を推進する業務を行っている。また、高次脳機能障害支援室では「高次脳機能障害支援普及事業（国事業）」の神奈川県内の支援拠点機関として支援コーディネーターと心理判定員が配置されており、高次脳機能障害者への相談支援、普及啓発活動、研修事業等を行っている。</p> <p>(1) リハビリテーション専門研修 医療・保健・福祉・介護専門職を対象とした研修で、二つの県の委託事業を除き、平成29年度は20コースを実施し、受講者の総数は延623名であった。平成29年度は新たに「セラピストのためのハンドリング入門」「脳血管障害の評価と治療」「からだにやさしいポジショニング入門」を開催した。県からの委託事業の中で、平成29年度に開設されたKRRCと「義肢装具セミナー～義手編～」を共同開催した。</p> <p>(2) 地域リハビリテーション支援関連活動</p> <p>①かながわ地域リハビリテーション支援連絡会「政令市のリハセンターとの連絡会（3回）」</p> <p>②地域医療介護連携会議等への参加 ア「厚愛地区医療介護連携会議」への出席（9回） イ「神奈川県小児等在宅医療推進会議」「厚木地域および小田原地域小児等在宅医療連絡会議」（5回） ウ「自立支援協議会（県、福祉協議会、市町村）」（3団体・延8回）</p> <p>③ 保健福祉事務所への難病患者支援研修協力（7団体・延9回）</p> <p>④ その他の行政機関主催の研修や相談会への職員派遣（3団体）</p>	<p>前年度と同様に、地域リハビリテーションシステムの構築のための取組みを継続して実施した。また、引き続き「さがみロボット産業特区」における医療・介護用ロボットの実証試験機関として、県施策と連携した取組みを実施した。</p>
--	--	--

[参考：自主事業]

事業計画の主な内容	実施状況等

5. 利用状況

(1) 七沢学園（児童・入所）

評価	《評価の目安》 目標値を設定し目標達成率で、S：110%以上 A：100%以上～110%未満 B：85%以上～100%未満 C：85%未満 目標値を設定していない場合は対前年度比。 社会福祉入所施設と県営住宅については評価を行わないこともできますが、「目標値」欄には代わりに定員数等を記載してください。
B	

	前々年度	前年度	平成29年度
利用者数※	9,674	9,924	10,299
対前年度比		102.6%	103.8%
目標値	10,033	10,731	10,731
目標達成率	96.4%	92.5%	96.0%

目標値の設定根拠：平成29年度は1日当たり29.4人（98.0%）とした

利用者数の算出方法（対象）：年間延べ利用者数を集計した

(2) 七沢学園（児童・地域支援【短期入所、家族短期、家族一日】）

評価	《評価の目安》 目標値を設定し目標達成率で、S：110%以上 A：100%以上～110%未満 B：85%以上～100%未満 C：85%未満 目標値を設定していない場合は対前年度比。 社会福祉入所施設と県営住宅については評価を行わないこともできますが、「目標値」欄には代わりにとなる数値（定員数等）があれば記載してください。
A	

	前々年度	前年度	平成29年度
利用者数※	658	623	785
対前年度比		94.7%	126.0%
目標値	700	720	720
目標達成率	94.0%	86.5%	109.0%

目標値の設定根拠：平成29年度は短期入所を延べ720人とした

利用者数の算出方法（対象）：年間延べ利用者数を集計した

※ 原則は人数だが、施設の状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

(3) 七沢学園 (成人・入所)

評価	≪評価の目安≫ 目標値を設定し目標達成率で、S：110%以上 A：100%以上～110%未満 B：85%以上～100%未満 C：85%未満 目標値を設定していない場合は対前年度比。 社会福祉入所施設と県営住宅については評価を行わないこともできますが、「目標値」欄には代わりとなる数値（定員数等）があれば記載してください。
A	

	前々年度	前年度	平成29年度
利用者数※	13,335	10,787	10,602
対前年度比		80.9%	98.3%
目標値	15,310	10,194	10,194
目標達成率	87.1%	105.8%	104.0%

目標値の設定根拠：平成29年度は1日当たり27.9人（93.1%）とした

利用者数の算出方法（対象）：年間延べ利用者数を集計した

※ 原則は人数だが、施設の状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

(4) 七沢学園 (成人・地域支援【短期入所】)

評価	≪評価の目安≫ 目標値を設定し目標達成率で、S：110%以上 A：100%以上～110%未満 B：85%以上～100%未満 C：85%未満 目標値を設定していない場合は対前年度比。 社会福祉入所施設と県営住宅については評価を行わないこともできますが、「目標値」欄には代わりとなる数値（定員数等）があれば記載してください。
C	

	前々年度	前年度	平成29年度
利用者数※	1,473	1,380	948
対前年度比		93.7%	68.7%
目標値	774	935	1,380
目標達成率	190.3%	147.6%	68.7%

目標値の設定根拠：平成29年度は短期入所を延べ1,380人とした

利用者数の算出方法（対象）：年間延べ利用者数を集計した

※ 原則は人数だが、施設の状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

(5) 七沢療育園 (入所)

評価	≪評価の目安≫ 目標値を設定し目標達成率で、S：110%以上 A：100%以上～110%未満 B：85%以上～100%未満 C：85%未満 目標値を設定していない場合は対前年度比。 社会福祉入所施設と県営住宅については評価を行わないこともできますが、「目標値」欄には代わりとなる数値（定員数等）があれば記載してください。
B	

	前々年度	前年度	平成29年度
利用者数※	13,272	13,240	13,059
対前年度比		99.8%	98.6%
目標値	13,775	13,807	13,807
目標達成率	96.3%	95.9%	94.6%

目標値の設定根拠：平成29年度は1日当たり37.7人（97.0%）とした

利用者数の算出方法（対象）：年間延べ利用者数を集計した

※ 原則は人数だが、施設の状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

(6) 七沢療育園（地域支援【短期入所、重心親子教室、療養訪問指導】）

評価	《評価の目安》 目標値を設定し目標達成率で、S：110%以上 A：100%以上～110%未満 B：85%以上～100%未満 C：85%未満 目標値を設定していない場合は対前年度比。 社会福祉入所施設と県営住宅については評価を行わないこともできますが、「目標値」欄には代わりとなる数値（定員数等）があれば記載してください。
S	

	前々年度	前年度	平成29年度
利用者数※	958	877	1,093
対前年度比		91.5%	124.6%
目標値	518	700	700
目標達成率	184.9%	125.3%	156.1%

目標値の設定根拠：平成29年度は短期入所を延べ700人とした

利用者数の算出方法（対象）：年間延べ利用者数を集計した

※ 原則は人数だが、施設の状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

(7) 七沢自立支援ホーム（入所）

評価	《評価の目安》 目標値を設定し目標達成率で、S：110%以上 A：100%以上～110%未満 B：85%以上～100%未満 C：85%未満 目標値を設定していない場合は対前年度比。 社会福祉入所施設と県営住宅については評価を行わないこともできますが、「目標値」欄には代わりとなる数値（定員数等）があれば記載してください。
B	

	前々年度	前年度	平成29年度
利用者数※	20,096	16,331	15,871
対前年度比		81.3%	97.2%
目標値	22,698	17,173	17,173
目標達成率	88.5%	95.1%	92.4%

目標値の設定根拠：平成29年度は1日当たり47.0人（94.1%）とした

利用者数の算出方法（対象）：年間延べ利用者数を集計した

※ 原則は人数だが、施設の状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

(8) 七沢自立支援ホーム（地域支援【短期入所、通所、受託評価】）

評価	≪評価の目安≫ 目標値を設定し目標達成率で、S：110%以上 A：100%以上～110%未満 B：85%以上～100%未満 C：85%未満 目標値を設定していない場合は対前年度比。 社会福祉入所施設と県営住宅については評価を行わないこともできますが、「目標値」欄には代わりとなる数値（定員数等）があれば記載してください。
C	

	前々年度	前年度	平成29年度
利用者数※	1,356	589	456
対前年度比		43.4%	77.4%
目標値	3,239	1,372	1,372
目標達成率	41.9%	42.9%	33.2%

目標値の設定根拠：平成29年度は短期入所を延べ1,372人とした

利用者数の算出方法（対象）：年間延べ利用者数を集計した

※ 原則は人数だが、施設の状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

(9) 神奈川リハビリテーション病院（入院）

評価	《評価の目安》 目標値を設定し目標達成率で、S：110%以上 A：100%以上～110%未満 B：85%以上～100%未満 C：85%未満 目標値を設定していない場合は対前年度比。 社会福祉入所施設と県営住宅については評価を行わないこともできますが、「目標値」欄には代わりとなる数値（定員数等）があれば記載してください。
A	

	前々年度	前年度	平成29年度
利用者数※	87,713	82,633	92,726
対前年度比		94.2%	112.2%
目標値	94,428	91,980	91,980
目標達成率	92.9%	89.8%	100.8%

目標値の設定根拠：平成29年度は1日当たり252人（90.0%）とした

利用者数の算出方法（対象）：年間延べ利用者数を集計した

※ 原則は人数だが、施設の状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

(10) 神奈川リハビリテーション病院（外来）

評価	《評価の目安》 目標値を設定し目標達成率で、S：110%以上 A：100%以上～110%未満 B：85%以上～100%未満 C：85%未満 目標値を設定していない場合は対前年度比。 社会福祉入所施設と県営住宅については評価を行わないこともできますが、「目標値」欄には代わりとなる数値（定員数等）があれば記載してください。
C	

	前々年度	前年度	平成29年度
利用者数※	70,455	65,965	61,898
対前年度比		93.6%	93.8%
目標値	88,200	87,900	87,900
目標達成率	79.9%	75.0%	70.4%

目標値の設定根拠：1日あたり外来患者数を延べ300人とした

利用者数の算出方法（対象）：年間延べ利用者数を集計した

※ 原則は人数だが、施設の状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

6. 利用者の満足度

(1) 七沢学園（児童・成人）

評価	《評価の目安》 「満足」（上位二段階の評価）と答えた割合が、S：90%以上 A：70%以上～90%未満 B：50%以上～70%未満 C：50%未満 ※評価はサービス内容の総合的評価の「満足」回答割合で行う
A	

満足度調査の実施内容	協定に定めた調査内容	実施結果と分析
	管理業務のサービス水準の向上を目的として実施	実施期間：平成29年11月13日～平成29年11月30日実施

[サービス内容の総合的評価]

質問内容 安心した生活、プライバシーの保護、相談事への対応、施設の印象

実施した調査の配布方法 聞き取り 回収数/配布数 43 / 43 = 100.0%

配布(サンプル)対象 利用者本人

	満足	どちらか といえば 満足	どちらか といえば 不満	不満	合計	満足、不満に回答が あった場合はその理由
サービス内容の総合的評価の回答数	15	18	4	3	40	自分の言い分を信じてもらえなかった
回答率	37.5%	45.0%	10.0%	7.5%		
前年度の回答数	19	11	6	3	39	
前年度回答率	48.7%	28.2%	15.4%	7.7%		
回答率の 対前年度比	77.0%	159.5%	65.0%	97.5%		

(複数回実施した場合は、平均値を記載。)

(2) 七沢療育園

評価	《評価の目安》 「満足」（上位二段階の評価）と答えた割合が、S：90%以上 A：70%以上～90%未満 B：50%以上～70%未満 C：50%未満 ※評価はサービス内容の総合評価の「満足」回答割合で行う
S	

満足度調査の実施内容	協定に定めた調査内容	実施結果と分析
	管理業務のサービス水準の向上を目的として実施	実施期間：平成29年11月13日～平成29年11月30日実施

[サービス内容の総合評価]

質問内容 施設のルール、行事・活動・食事

実施した調査の配布方法 郵送 回収数/配布数 26 / 31 = 83.9%

配布(サンプル)対象 長期利用者の家族(保護者等)

	満足	どちらか といえば 満足	どちらか といえば 不満	不満	合計	満足、不満に回答が あった場合はその理由
サービス内容の総合 評価の回答数	18	8	0	0	26	利用者に楽しい行事を過ごしてほしいという気持ちを感じた。
回答率	69.2%	30.8%	0.0%	0.0%		
前年度の 回答数	15	6	1	0	22	
前年度回答率	68.2%	27.3%	4.5%	0.0%		
回答率の 対前年度比	101.5%	112.8%	0.0%	0.0%		

(複数回実施した場合は、平均値を記載。)

(3) 七沢自立支援ホーム

評価	≪評価の目安≫ 「満足」(上位二段階の評価)と答えた割合が、S:90%以上 A:70%以上～90%未満 B:50%以上～70%未満 C:50%未満 ※評価はサービス内容の総合的評価の「満足」回答割合で行う
A	

満足度調査の実施内容	協定に定めた調査内容	実施結果と分析
	管理業務のサービス水準の向上を目的として実施	実施期間:平成29年11月20日～平成29年11月30日実施

[サービス内容の総合的評価]

質問内容 施設のルール、集団生活、行事、食事、入浴、清掃

実施した調査の配布方法 個別配布、聞き取り 回収数/配布数 46 / 52 = 88.5%

配布(サンプル)対象 利用者本人

	満足	どちらか といえば 満足	どちらか といえば 不満	不満	合計	満足、不満に回答があった場合はその理由
サービス内容の総合的評価の回答数	21	13	6	2	42	食事の種類を増やしてほしい。
回答率	50.0%	31.0%	14.3%	4.8%		
前年度の回答数	19	15	5	1	40	
前年度回答率	47.5%	37.5%	12.5%	2.5%		
回答率の対前年度比	105.3%	82.5%	114.3%	190.5%		

(複数回実施した場合は、平均値を記載。)

(4) 神奈川リハビリテーション病院 (入院)

評価	≪評価の目安≫ 「満足」(上位二段階の評価)と答えた割合が、S:90%以上 A:70%以上~90%未満 B:50%以上~70%未満 C:50%未満 ※評価はサービス内容の総合的評価の「満足」回答割合で行う
A	

満足度調査の実施内容	協定に定めた調査内容	実施結果と分析
	管理業務のサービス水準の向上を目的として実施	実施期間:平成29年9月11日~平成29年9月22日

[サービス内容の総合的評価]

質問内容 病院全般についての満足度

実施した調査の配布方法 病棟で配布 回収数/配布数 151 / 228 = 66.2%

配布(サンプル)対象 入院患者

	満足	どちらか といえば 満足	どちらか といえば 不満	不満	合計	満足、不満に回答が あった場合はその理由
サービス内容の総合的評価の回答数	56	58	12	3	129	入院生活中の患者同士によるトラブルに対する不満
回答率	43.4%	45.0%	9.3%	2.3%		
前年度の回答数	64	42	10	3	119	
前年度回答率	53.8%	35.3%	8.4%	2.5%		
回答率の対前年度比	80.7%	127.4%	110.7%	92.2%		

(複数回実施した場合は、平均値を記載。)

(5) 神奈川リハビリテーション病院（外来）

評価	《評価の目安》 「満足」（上位二段階の評価）と答えた割合が、S：90%以上 A：70%以上～90%未満 B：50%以上～70%未満 C：50%未満 ※評価はサービス内容の総合的評価の「満足」回答割合で行う
S	

満足度調査の実施内容	協定に定めた調査内容	実施結果と分析
	管理業務のサービス水準の向上を目的として実施	平成29年6月19日～平成29年6月23日

[サービス内容の総合的評価]

質問内容 病院全般についての満足度

実施した調査の配布方法 外来窓口で配布 回収数/配布数 298 / 442 = 67.4%

配布(サンプル)対象 外来患者

	満足	どちらか といえば 満足	どちらか といえば 不満	不満	合計	満足、不満に回答が あった場合はその理由
サービス内容の総合的評価の回答数	211	80	6	1	298	予約方法に関する不満
回答率	70.8%	26.8%	2.0%	0.3%		
前年度の回答数	214	84	4	2	304	
前年度回答率	70.4%	27.6%	1.3%	0.7%		
回答率の 対前年度比	100.6%	97.2%	153.0%	51.0%		

(複数回実施した場合は、平均値を記載。)

7. 収支状況

評価	《評価の目安》 収支差額の当初予算額：0円の施設が該当 収入合計／支出合計の比率が S(優良)：105%以上 A(良好)：100%～105%未満 B(概ね計画どおりの収支状況である)：85%～100%未満 C(収支比率に15%を超えるマイナスが生じている)：85%未満
A	

[指定管理業務]

(単位：千円)

		収入の状況					支出の状況	収支の状況	
		指定管理料	利用料金	その他収入	その他収入の主な内訳	収入合計	支出	収支差額	収支比率
前々年度	当初予算	4,122,927	5,896,403	42,220	備考の通り	10,061,550	10,061,550	0	
	決算	4,122,927	5,129,947	62,701	備考の通り	9,315,575	9,268,303	47,272	100.51%
前年度	当初予算	3,709,158	5,434,204	42,949	備考の通り	9,186,311	9,186,311	0	
	決算	3,709,158	4,880,106	72,307	備考の通り	8,661,571	8,515,239	146,332	101.72%
29年度	当初予算	3,228,752	4,462,970	38,679	備考の通り	7,730,401	7,730,401	0	
	決算	3,202,320	4,315,177	42,476	備考の通り	7,559,973	7,509,672	50,301	100.67%

※支出に納付金が含まれる場合、その内数

(単位：千円)

29年度 / 前年度 / 前々年度 /

<備考>

前々年度/受取利息配当金収入：(当初) 4,062 (決算) 5,769 その他の収入：(当初) 23,037 (決算) 33,448
その他の事業収入(当初) 0 (決算) 215 固定資産売却収入(当初) 0円 (決算) 1,500 長期貸付金回収収入：
(当初) 5,040 (決算) 13,188 こども園使用料・給食費収入：(当初) 10,081 (決算) 8,581

前年度/受取利息配当金収入：(当初) 6,794 (決算) 6,255 その他の収入：(当初) 22,599 (決算) 51,836 そ
その他の事業収入(当初) 0 (決算) 1,062 長期貸付金回収収入：(当初) 3,832 (決算) 3,952 こども園使用料・
給食費収入：(当初) 9,724 (決算) 9,202

29年度/受取利息配当金収入：(当初) 4,961 (決算) 4,945 その他の収入：(当初) 15,522 (決算) 23,760
長期貸付金回収収入：(当初) 6,249 (決算) 3,676 こども園使用料・給食費・補助金収入：(当初) 11,947 (決
算) 10,095

8. 苦情・要望等

(1) 七沢学園（児童・成人）

分野	報告件数		概要	対応状況
施設・設備	苦情	0 件		
	相談	0 件		
職員対応	苦情	0 件		
	相談	0 件		
事業内容	苦情	0 件	就寝時間について延長の要望	金土祝祭日前日は利用者の意志を尊重し個別に対応することにした
	相談	11 件		
その他	苦情	0 件	同部屋の利用者同士のトラブルについての相談	当事者以外の利用者の影響もあることが予想されたので、部屋移動を検討した。継続して相談を受け、仲直りの方法を伝え、解消された。
	相談	10 件		

※指定管理者に起因するものを記載。その他、苦情・要望への対応を行ったものを記載。

(2) 七沢療育園

分野	報告件数		概要	対応状況
施設・設備	苦情	0 件	施設の清掃についての要望	業者に依頼し、清掃をしてもらうことにした。
	要望	1 件		
職員対応	苦情	0 件		
	相談	0 件		
事業内容	苦情	0 件	利用者家族から利用者が特定の職員と接すると落ち着かなくなり、両者の関係についての相談。	臨床心理士に生活場면을観察してもらい、本人が該当職員のどういうところを見ているかを評価し、この情報を所属で共有した。
	相談	2 件		
その他	苦情	0 件		
	相談	0 件		

※指定管理者に起因するものを記載。その他、苦情・要望への対応を行ったものを記載。

(3) 七沢自立支援ホーム

分野	報告件数		概要	対応状況
施設・設備	要望	4 件	食事に対する要望や感謝 施設の通路に関する要望	食事の提供方法について、適温で配膳するように配慮した。 福祉施設と病院間の連絡バスを運行し、利用者の送迎した。
	苦情	2 件		
	感謝	2 件		
職員対応	要望	5 件	職員の利用者に対する言葉づかいについての苦情	現場職員へ報告し、対応を検討するように伝えた。
	苦情	2 件		
	感謝	2 件		
事業内容		件		
		件		
その他	相談	5 件	自販機の商品の値段が高い。	近隣の自販機の価格を確認し設置元へ連絡し、価格を検討してもらうよう依頼した。
	要望	1 件		

※指定管理者に起因するものを記載。その他、苦情・要望への対応を行ったものを記載。

(4) 神奈川リハビリテーション病院

分野	報告件数		概要	対応状況
施設・設備	苦情	17 件	再整備工事に伴う仮設バス停および駐車場から病院臨時出入り口へのアクセス方法に関する苦情	車いす運転者専用駐車場を設置し、雨天の場合は職員を配置し、個別に対応している。
	要望	30 件		
	その他	件		
職員対応	苦情	30 件	職員の接遇・勤務態度に関する苦情 職員の丁寧な説明に対する感謝	所属から職員への注意喚起 職員研修の実施
	要望	9 件		
	感謝	2 件		
事業内容	苦情	8 件	外来の予約変更に関する要望。予約変更の際に、予約センターの他に関係部署に連絡しなければならぬ場合があり、予約の一元化をしてほしいという内容。	病院の予約システムについてわかりやすく説明し、現状とその目的を回答した。
	要望	6 件		
その他	苦情	6 件	入院生活中の患者同士のトラブルに関する苦情	規律を守っていない患者に対しては、病院の規律を説明し、患者さん個々の状況を把握し必要に応じた配慮を行う。
	要望	件		
	感謝	1 件		
	その他	2 件		

※指定管理者に起因するものを記載。その他、苦情・要望への対応を行ったものを記載。

9. 事故・不祥事等

発生日	①発生時の詳細な状況 ②県職員による確認の状況（内容及び実施日を記入） ③その後の経過（現在に至るまでの負傷者の状況、再発防止策等） ④施設に対する問題点の指摘やクレームの有無（有の場合は概要を記入） ⑤原因及び費用負担の有無（費用負担が有の場合は内容および負担者を記入） ⑥記者発表の有無（有の場合はその年月日を記入）
8月15日	【七沢自立支援ホーム】 ①利用者Aが居室から訓練室へ向かうため、単独で歩行中、角で他利用者（視覚障害の方）と衝突し、後方に転倒（尻もち）し、その反動で廊下の扉に頭と腰をぶつけた。医務課看護師が確認後、神奈川リハ病院整形外科を受診した。診察結果、腰椎圧迫骨折と診断された。なお、他利用者は無傷であった。 ②8月15日文書報告 ③施設利用者に対しては、歩行中の声出しをお願いしていたが、双方ともに聞き取れなかった様子であった。再度、施設利用者全員に対して歩行中の声出しを依頼した。 ④8月15日ご家族へ電話連絡し、状況説明と謝罪をした。 ⑤日頃から移動の際、衝突を避けるために声を出していただくことをお願いしていたが、双方の声が届かず気付かなかった。患者の費用負担はない。 ⑥なし
10月8日	【七沢自立支援ホーム】 ①平成29年10月8日、利用者が自立支援ホーム食堂で家族・知人と面会中、椅子から立ち上がろうとして転倒。看護師が確認。痛みはあるが膨張・熱感無し。当直医師へ報告し、様子観察の指示。10月9日4時45分に38.1度熱発。看護師が確認。左大腿部膨張、熱感軽度出現、体位交換時痛み増強あり。9時50分神奈川リハビリ病院 急患室受診。診察後レントゲン撮影。左大腿転子部骨折の診断。11時45分入院となる。 ②10月10日文書報告 ③体調に合わせて移動方法を歩行から車椅子に変えることが必要。自分で意識することも必要だが、周囲の人々が配力することも必要と思われる。 ④10月9日ご家族へ電話連絡。 ⑤入所当時は車椅子移動であったが、機能訓練の効果で補装具で杖で歩行が可能になっていた。しかし、当日は歩行のまま外出しており疲労もあったと思われる。さらに知人の面会で気持ちが集中していなかったと思われる。患者の費用負担はない。 ⑥なし
1月22日	【七沢療育園】 ①平成30年1月22日、ベッドから車椅子への移乗介助時に車椅子とベッドの間に転落し、左大腿骨頸部骨折の診断となった。 ②1月22日文書報告 ③1月22日、事故に関する再発予防のカンファランスを行う。再発防止に向けて、3人介助時の立ち入りの周知を徹底する。 ④家族には、主治医より電話にて連絡し説明した。ご家族からは「仕方ありません」とのコメントがあった。 ⑤ご本人は骨粗しょう症により骨折しやすく、坐位がとれないため、ベッド上及び車椅子乗車時は仰臥位で過ごしている。移乗方法は車椅子をフラットにしてベッドに平行につけて、仰臥位の姿勢のまま移乗用ボートを使い、スライドするように3人の職員による介助で行う対応を行っていた。事故時は3人介助していたが、車椅子がずれないようにするための位置に介助者が立たず、ご本人を車椅子の方向にスライドさせたため車椅子とベッドの間に隙間があき、その隙間に転落したものである。患者の費用負担はない。 ⑥なし
2月15日	【七沢学園】 ①平成30年2月15日、不安定状態からユニット内デイスパースの壁を右手で殴打し、右手周辺の痛みを訴えた。クーリング及び湿布で対応し、医務課看護師も確認の上、様子観察した。2月20日夕方、さらに腫れていた。園庭でサッカーをした際、ボールを右手で受け止めたとのことだった。医務課看護師が確認し、整形外科受診まで湿布対応となる。2月23日、神奈川リハ病院整形外科受診。CT検査を行い、右第4指第5指中手骨骨折とのことだった。添木と包帯で固定し、完治まで約3か月との診断だった。 ②2月23日文書報告 ③日々の生活状況について職員間で観察を強化し、また心理科職員の助言も受けながら、安定した生活が送れるよう支援を継続する。 ⑤患者の費用負担はない。 ⑥なし

※随時モニタリングを実施した場合は必ずその内容を記載。

※過去に発生したものでも、新たな対応等を実施した場合には、その内容を記載。

※なお、大きな事故・不祥事に関して改善勧告を行わなかった場合は、その理由を併せて記載。

10. 労働環境の確保に係る取組状況

確認項目	指摘事項の有無	備考
法令に基づく手続き	無	
職員の配置体制	無	
労働時間	無	
職場環境	無	

※指摘事項は、県による監査（包括外部監査含む）又は労働基準監督署によるものとし、有とした場合は備考欄に概要を記載。